

被爆した少女ヒロ子が17才の8月6日に初めて
自分の生いたちを聞かされる。「君のお母さんは……

それでも少女は力強く生きていく。心に残る感動のアニメーション映画。



〈カラー作品〉 原作・今西祐行 | 脚本・森崎東 | アニメーション作画・小林治 | 共和教育映画社 提供作品

平和教育アニメ

ヒロシマのうた

ヒロシマのうた

共和教育映画社提供作品

原作●今西祐行

脚本●森崎 東

演出●作画●小林 治

美術●大山哲史

監修●滑川道夫

語り●岸田今日子

《カラー作品》上映時間11分 16ミリフィルム・販売価格¥80,000 ヘラルド・エンタープライズ グループタック作品

平和教育アニメ

広島に原爆が落ちてから7年たった夏の暑い日、ラジオから「尋ねびと」の放送が耳に入り、7年前のできごとを思い出した私はすぐに連絡をとりました。

昭和20年8月——軍港の町の呉にいた私たちが、被爆した人々を救うために広島に着いて見たものは、まるで地獄絵のような焼けただれ、無残な町の姿でした。交替でやっと眠りについた私が、夢の中で聞いた赤ん坊の泣き声は、翌朝の復旧作業に出かける時に再び聞こえました。隊を抜けてさがし続けていると、ひどいやケドを負って重傷の女の人が胸にしっかりと赤ん坊を抱いたまま倒れていました。赤ん坊を引き受けたものの、兵隊である私が連れたままで隊に戻れるわけがなく、通りがかった夫婦に預けたのです。隊に帰った私がいくら赤ん坊のことを説明しても、命令にそむいたという理由でひどくなぐられました。戦争というものはこのように非情で残酷なものであることを思い知らされました。

広島駅の駅で少女を連れた女の人が迎えてくれました。あの時、自分の子供を亡くしたので預ったこと、名前も同じヒロ子とつけたこと、ご主人が原爆症で亡くなり、ヒロ子ちゃんを身内の人に渡すつもりで「尋ねびと」をしたというのです。けれども今日その時の様子を聞いて気持が変わったこと、そして今か

ら10年後、私からヒロ子ちゃんに本当のことを話すという約束をして別れました。

そして10年たった8月6日、17才になり洋裁学校に行っているヒロ子ちゃんと歩いて見た広島もすっかり変わっていました。夕暮れの川面には原爆で亡くなった人たちの戒名を書いたいくつもの灯籠が光の筋をひいて流れていきます。今こそ、すべてを話す時だと思い、ありのままを正直に話しました。泣き出すのではと心配でしたがヒロ子ちゃんは「私、母に似てますか？」とだけ言いました。ヒロ子ちゃんが強い子だとわかり安心しました。

翌朝、約束をはたして帰る私をお母さんが駅まで見送りに来てくれました。ヒロ子ちゃんは昨夜は眠っていないと聞き、私はヒロ子ちゃんを傷つけたのだと後悔しました。発車のベルが鳴り、列車が動き出しました。その時ホームの向うから走ってくるヒロ子ちゃんの姿が見えました。ヒロ子ちゃんの手には、一晩寝ないで私のために縫ってくれたカッターシャツがありました。もう何もかも安心です。ヒロ子ちゃんはこれからも明るく、力強く生きていくことでしょう。そして二度と戦争という恐ろしいことはあってはならないと思いました。

北辰映像株式会社

〒350-0461 埼玉県入間郡毛呂山町中央3-32-3

TEL: 049-298-5792 FAX: 049-298-5793

E-mail: co@hokushineizo.com